

【政策5】生活基盤整備



【施策5-1】

多極ネットワーク型コンパクトシティにより、利便性が高く、居心地のよい、ひらかれた都市づくりを進めます

主管課：都市計画課

関連課：施設管理室／高齢福祉課／商工観光課

◆現状と課題

立地適正化計画に基づき、利便性が高く、多様性に富んだ活動や交流を促進する、新たな都市づくりへの転換に向け、「複合型中心拠点誘導施設」の整備など、利便性の高い拠点形成を図るとともに、交通ネットワークの構築に向け、高齢者を中心に利用が広がっている「こもろ愛のりくん」の持続可能な運行への改善を行う必要がある。

そして、利便性に加え、“居心地のよい、ひらかれた”都市としての付加価値を高めるため、都市機能施設の有機的な連携と、外出機会の創出につながる「こもろ愛のりくん」の利用促進等に取り組む必要がある。

◆方針（目的）

利便性の高い拠点形成のため、令和3年8月供用開始に向け、「複合型中心拠点誘導施設」の整備を着実に進めるとともに、民間投資を意識した、都市機能施設の誘導を公民連携により取り組む。また、交通ネットワークの構築に向け、市内の公共交通においては、「こもろ愛のりくん」の利便性と効率性の両立を図るよう、他の公共交通や市民主体の移動サービスとの連携を図りながら、運行改善を実施するとともに、広域的な公共交通においては、鉄道・バス等の幹線交通の維持のため、引き続き、運行事業者との連携・支援を行う。そして、“居心地のよい、ひらかれた”新しい都市づくりとしての付加価値を高めるため、公園や文化施設、駅施設などの公共的空間の活用と、外出機会の創出につながる「こもろ愛のりくん」の利用浸透策を包括的に実施する。

◆目標

- ①公共交通の利便性が高い、小諸駅・市庁舎周辺地域において、様々な市民生活での利用が高まっている状態。
- ②交通ネットワークの構築に向け、「こもろ愛のりくん」が、利便性と効率性とを両立して運行している状態。
- ③小諸駅・市庁舎周辺地域における公共的空間の活用と、外出機会の創出につながる「こもろ愛のりくん」の利用浸透策の実施が包括的に行われ、“居心地のよい、ひらかれた”都市づくりへの転換が進んでいる状態。

◆目標値

| | | | | | | |
|---|------|--|---------|---------|---------|---------|
| ① | 指標名 | 小諸駅・市庁舎周辺地域におけるこもろ愛のりくんの利用割合 | | | | |
| | 設定理由 | 小諸駅・市庁舎周辺地域において、様々な市民生活での利用が高まることにより、「こもろ愛のりくん」による利用割合が増えるため。【小諸駅・市庁舎周辺地域の利用頻度①】 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 22.6% | 23% | 30% | 35% | 40% |
| ② | 指標名 | 小諸駅・市庁舎周辺地域における市営駐車場の1日の駐車台数 | | | | |
| | 設定理由 | 小諸駅・市庁舎周辺地域において、様々な市民生活での利用が高まることにより、市営駐車場の駐車台数が増えるため。【小諸駅・市庁舎周辺地域の利用頻度②】 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 1,510台 | 1,510台 | 2,000台 | 3,000台 | 3,000台 |
| ③ | 指標名 | こもろ愛のりくんの年間利用者数 | | | | |
| | 設定理由 | こもろ愛のりくんの利便性が向上すれば、利用者数が増加するため。【こもろ愛のりくんの利便性と効率性の両立①】 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 54,145人 | 55,000人 | 56,000人 | 58,000人 | 60,000人 |
| ④ | 指標名 | こもろ愛のりくんの収支比率 | | | | |
| | 設定理由 | こもろ愛のりくんの利便性が向上し、利用者数が増加するとともに、効率化を進めることにより、収支比率が改善され、利便性と効率性の両立が図られるため。【こもろ愛のりくんの利便性と効率性の両立②】 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 13% | 14% | 20% | 22% | 25% |

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

高齢者や交通弱者のニーズに配慮した安全で利便性の高いコミュニティ交通の構築により、高齢者を中心とした道路交通事故の抑制に寄与する。

ゴール6 「安全な水とトイレを世界中に」

中心市街地に設置された公衆用トイレを適切に維持・管理し、市民や来訪者に快適な衛生環境の提供を図る。また、徒歩による回遊性を高めるために、まちなかで快適に利用できる衛生環境の整備を推進する。

ゴール11 「住み続けられるまちづくりを」

立地適正化計画に基づき、利便性と快適性を備え、かつ、歩いて回遊できる快適な都市空間を醸成し、市民や来訪者の交流が生まれ、移住・定住に繋がる魅力あるまちづくりを進める。

◆主な事業

都市再生整備計画事業／交通政策費運営費／公共交通事業／市営駐車場管理事業

◆個別計画

都市計画マスタープラン／立地適正化計画／地域公共交通網形成計画

【政策 5】生活基盤整備



【施策 5-2】

社会基盤の整備と長寿命化を進めます

主管課：建設課

◆現状と課題

社会基盤である道路や橋梁、河川は、必要な機能を維持するための修繕が中心となっており、事業要望による生活道路の整備や幹線道路の舗装改良、橋梁の修繕・耐震補強、河川の護岸保全など、計画的な整備ができていない状況にある。

このような状況のなか、生活道路の整備は、新設や拡幅改良などは必要箇所の精査により道路整備を実施することとし、生活に密着した維持修繕として対応する必要がある。また、舗装改良や橋梁の修繕・耐震補強は、長寿命化修繕計画に基づき、より効率的に進める必要がある。

◆方針（目的）

市民生活に欠くことのできない道路や橋梁等の整備において、生活道路の新設や拡幅改良は、評価項目に基づき、効率的で効果のある整備を計画的に行い、即効性のある維持修繕を主体的に行い道路の安全性を確保する。また、幹線道路の舗装改良は長寿命化修繕計画に基づき計画的に行う。

橋梁修繕等の整備は、将来への持続を考えた長寿命化修繕計画に基づき、効果のある整備を行う。

◆目標

- ①生活道路の維持・修繕を行い、通行の安全性が確保された状態。
 ②橋梁及び横断歩道橋が、長寿命化修繕計画に基づき適正に維持管理されている状態。

◆目標値

| | | | | | | |
|---|------|---------------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| ① | 指標名 | 道路改良・改修、維持修繕への対応割合（実施数／要望数） | | | | |
| | 設定理由 | 市民生活に密着した道路機能維持のため。 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 46% | 50% | 50% | 50% | 50% |
| ② | 指標名 | 生活道路の維持・補修に対する市民満足度（市民意識調査） | | | | |
| | 設定理由 | 市民の満足度が高ければ、環境施策が住民のニーズに沿っている割合が高いから。 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 45.5% | 47% | 48% | 49% | 50% |

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール11 「住み続けられるまちづくりを」

社会基盤の整備として、道路や橋梁等の維持・修繕を行うことにより、安全性が確保され快適に暮らせるまちづくりを推進する。

◆主な事業

市単道路等整備事業／社会資本整備総合交付金事業（橋梁）
 ／社会資本整備総合交付金事業（舗装改良）

◆個別計画

舗装長寿命化修繕計画／橋梁及び横断歩道橋長寿命化修繕計画／耐震改修促進計画
 ／公営住宅等長寿命化変更計画／空家等対策計画

【政策5】生活基盤整備



【施策5-3】

安全な水道水の安定供給と持続的な安定経営を進めます

主管課：上水道課

◆現状と課題

小諸市の水道水源は湧水と深井戸のみで、水量・水質ともに安定した供給を行っているが、高度成長期以降に整備された施設が法定耐用年数を迎え始め、水道施設の老朽化が進み更新が必要である。加えて近年の異常気象による水質悪化の懸念もあり、対策を図る必要がある。

水源地や配水池など施設数が多く複雑化しており、維持管理における技術の継承など人材育成も図る必要があったため、公民共同企業体を設立し、指定管理者制度により一部の業務を委託した。

今後、人口減少問題により料金収入の減少も見込まれ、施設の更新や水源の浄化施設の新設とその財源確保が大きな課題となっている。

◆方針（目的）

小諸市上水道事業基本計画に基づく小諸市上水道事業実施計画により、事業推進を図り、将来も持続可能な水道事業の基盤を構築する。

公民共同企業体「㈱水みらい小諸」へ指定管理制度により委託した一部業務を、厳格に業務管理を行うことで、水道水の安定供給と事業の持続的な安定経営を図るとともに使用者に適切な情報提供を行い、水道事業の理解度を深める。

◆目標

- ①小諸市上水道事業基本計画に基づく実施計画により計画的に施設の整備を行い、将来も持続可能な水道事業の基盤を構築するとともに、計画の進捗状況のチェックや業務状況の確認を行い、効率的な計画実施が図れる状態。
- ②事業主体として小諸市水道施設等の指定管理者への厳格な業務管理（モニタリング）を行い、効率的な施設の維持管理が図れる状態。
- ③適切な情報提供により、水道使用者の水道事業に対する理解度が深まる状態。

◆目標値

| | | | | | | |
|---|------|---------------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| ① | 指標名 | 安定した水道水の供給に対する市民満足度（市民意識調査） | | | | |
| | 設定理由 | 市民の満足度が高ければ、安定した水道水の供給ができていない割合が高いから。 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度（現状値） | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 83.5% | 84.0% | 84.5% | 85.0% | 85.0% |
| ② | 指標名 | 総収支比率（総収益/総費用）×100 | | | | |
| | 設定理由 | 100以上が望ましく、計画的な経営ができていないか分かるから。 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度（現状値） | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 117.8% | 116% | 104% | 106% | 105% |

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール6 「安全な水とトイレを世界中に」

自然豊かで安全なおいしい水道水を、水道法に基づいた水質管理を行いつつ、いつでもどこでも水道水を得られる環境を整備し、安定した供給を図る。

◆主な事業

小諸市水道事業

◆個別計画

地域防災計画／上水道事業基本計画／水道ビジョン／上水道事業実施計画

【政策 5】生活基盤整備

【施策 5-4】



安全で安心な暮らしを実現する体制を充実させます

主管課：危機管理課

関連課：生活環境課／消防課／市民課

◆現状と課題

災害による被害を減らすため、市内 68 区に自主防災組織の設立を目指しているが、「共助」のための自主防災組織については、未だ組織化されていない行政区がある。今後発生しうる大規模自然災害に備えて、被害を最小限にとどめる「自助・共助」を中心とした「減災」の取り組みが必要である。また、災害時の防災、減災のため、地域防災の要である消防団員の災害対応能力の向上を図るとともに、消防団と自主防災組織との連携を強化していく必要がある。

高齢社会となるなかで、高齢者の交通事故が増えている。交通事故を減らす取り組みと併せて、高齢者に対する啓発活動を強化していく必要がある。

防犯については、犯罪の未然防止の役割を果たしている防犯カメラの設置や運用、LED防犯灯への切替や、耐用年数が 10 年と言われている LED の交換時期の検討が必要である。

◆方針（目的）

地域全体で安全安心なまちをつくるため、関係機関との連携強化と住民意識の高揚を図り、すべての市民が安全で安心して生活できる住みよい地域社会の実現を進める。

あらゆる災害に対応するため、佐久広域連合消防本部が行う消防・救急業務を支援するとともに、消防団活動の充実を図る。

交通事故の発生件数を減らすため、関係機関・関係団体と連携し、啓発活動を推進していく。

◆目標

- ①すべての地域で様々な手段により防災行政情報を入手でき、市民が避難方法や避難場所等を熟知して、防災・防犯意識が高まっている状態。
- ②交通事故発生件数が減少し、かつ、交通死亡事故がゼロになり、安全で安心して暮らせる状態。
- ③災害時に備え、地域において、自助・共助の理念のもと地域防災力の向上に積極的に取り組んでいる状態。

◆目標値

| | | | | | | |
|---|------|---|-------|-------|-------|-------|
| ① | 指標名 | 防災への取り組みに対する市民満足度（市民意識調査） | | | | |
| | 設定理由 | 市民の満足度が高ければ、防災施策が住民のニーズに沿っている割合が高いから。 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 71.0% | 72.0% | 73.0% | 74.0% | 75.0% |
| ② | 指標名 | 交通事故死者数 | | | | |
| | 設定理由 | 死亡事故がなくなれば、交通安全に関する啓発が適切に行われ、市民の安全が確保されていると考えられるから。 | | | | |
| | 目標値 | 令和元年度(現状値) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | 1人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

近年、子どもや高齢者が絡む交通事故の割合は多くなっているため、市民や関係団体などと連携し、交通安全運動を推進することにより、交通事故のない安全で快適な社会の実現を図る。

ゴール11 「住み続けられるまちづくりを」

地域住民、自主防災組織等の協力を得ながら、特に支援を要する者を守るための防災対策の充実を図る。

◆主な事業

防犯事業／防災対策費運営費／防災情報基盤整備・運用事業／非常備消防費運営費
／交通安全対策事業／消費者行政事業

◆個別計画

地域防災計画／国土強靱化地域計画／交通安全基本計画